

CHIJIN SHOKAN DICTIONARY OF ASTRONOMY

天文学の歩みは人類の知の歴史そのものといえるかもしれない

—日本人の手による初めての天文学大事典—



天文学大事典編集委員会 編

B5判／800頁／函入り／定価25,200円(税込)

地人書館

## ■本書「序文」より

人類は、遙かのロマンを抱いて天の世界に自らを投影しつつ、天が投げかけてくる謎に挑戦してきた。人類が抱く好奇心や想像力はけっして止まることがなく、より遠く、より暗い、より微妙な天体の姿を求める努力が科学や技術を駆動してきたのだ。そのような長い人類の歴史の中で培われてきた莫大な知の集大成として、現代天文学が成立している。そして、人間の文化の重要な一分野としてしっかりとその地位を保ってきた。その意味で、現代天文学は多大な先人の知恵と躍進著しい最新の科学を結合した金字塔なのである。天文学の歩みは人類の知の歴史そのものといえるかもしれない。

本事典は、そのような現代天文学のよって立つ基礎となる知識を、コンパクトに、かつわかりやすく記述する一方、さまざまな科学の最前線との接点を意識して書き進めることに重点をおいた。科学の成果は常に新しい発見に乗り越えられる宿命を持つが、時代を越えて貫徹している原理や法則は装いを変えつつも永遠の真実として科学の屋台骨を支えており、それらの両面を過不足なく叙述することに努めたのだ。

したがって、本事典は、天文学に関する基本的な事象に関して万全を期することを第一義とするとともに、最新の話題にも対応できるように工夫している。最古で最新の科学である天文学の現在の姿を如実に示すことを意図したからだ。本事典は、天文学に興味を持つ一般読者の相談相手になることを目指してはいるが、科学ジャーナリストや科学コミュニケーター、教育関係者、そして天文学の専門家にも広く活用できると信じている。簡潔な定義的な説明と重要度を配慮した解説を組み合わせ、それぞれの立場に合った記述に努めたからだ。さらに、天文学を起点にして科学の今を考えるヒントを得るためにも使っていただけたらと思っている。幅広い読者を想定して、天文学のイロハから最新の知識まで盛り込んだつもりである。

さらに、言葉の単純な解説にとどめず、利用者の想像を刺激するよう物語風に語るよう工夫もした。そのため、重要度に応じて大項目や中項目で詳しく解説するとともに、小項目においては要領よく内容を解説するように努めた。日進月歩の分野が多く、その詳細に関わっていきりがないため、その大要を的確に書くことを優先した。とはいえ、むろん現時点において最新の情報を網羅している自信はある。正確さと理解しやすさを最大の目標にしたが、まだ不十分な部分が残っているかもしれない。分野別編集委員による査読と執筆者による加筆・訂正を行ない、疑問や要望を可能な限り取り入れて原稿の改訂作業を繰り返した。

今、世間では多くの事典類が出版されており、天文学や宇宙に関する類書も数多くある。しかし、私たちの誇りとするところは、天文学に関して日本人の手による最初の大きな事典であり、日本が寄与した成果をも過不足なく取り上げていることである。むろん、科学の世界は普遍的であり国際的であるのが普通で、あえて日本発の事典という必要はないかもしれないが、比較的遅れて出発した日本の天文学が世界に伍する実力を獲得したのみならず、今や世界をリードする地位に立っていることを強調したいのだ。そのような科学の土台があればこそ、本事典のような大部の書物を完成することができたといえよう。

池内 了(総合研究大学院大学教授、天文学大事典編集委員会編集幹事)

# 天文学大事典編集委員会

## ■編集主幹

山田 卓

## ■編集幹事

池内 了 佐藤 修二 澤 武文 森 暁雄 森 治郎

## ■分野別編集委員

池内 了 内田 豊 岡村 定矩 奥田 治之 加藤 賢一  
斎尾 英行 桜井 隆 佐藤 修二 澤 武文 祖父江義明  
西村 史朗 野田 学 福島登志夫 楨野 文命 山田 卓  
山本 哲生 吉川 真

## ■制作編集委員

小林 修二 鈴木 雅夫 野田 学 本多 康郎 毛利 勝廣  
山田 吉孝

# 天文学大事典執筆者

青木 勉	青木 和光	阿部 豊	荒川 政彦	荒船 次郎
有本 信雄	安藤 裕康	家 正則	池内 了	井田 茂
市川 隆	一本 潔	伊藤 孝士	井上 一	内田 豊
梅原 広明	海老塚 昇	榎森 啓元	太田 耕司	岡田 達明
岡村 定矩	小川 英夫	奥田 治之	小倉 勝男	尾崎 洋二
梶野 敏貴	加藤 賢一	加藤 正二	株本 訓久	川村 静児
草野 完也	久保 良雄	久保岡俊宏	倉本 圭	黒河 宏企
小笹 隆司	小玉 英雄	後藤真理子	小林 憲正	小山 勝二
斎尾 英行	阪本 成一	桜井 隆	佐々木 節	佐々木 稔
定金 晃三	佐藤 修二	澤 武文	芝井 広	柴崎 徳明
柴田 一成	柴橋 博資	嶋作 一大	末松 芳法	鈴木 雅夫
関井 隆	関口 和寛	相馬 充	祖父江義明	多賀 正敏
高橋 忠幸	高原 文郎	高原まり子	高見 英樹	田近 英一
立松 健一	田中 培生	田中 济	田原 譲	千葉 柁司
辻 隆	出口 修至	出村 裕英	寺蘭 淳也	土佐 誠
長沢 工	中嶋 浩一	中島 弘	中田 好一	仲野 誠
永原 裕子	中村 昭子	中村 士	中村 正人	中村 泰久
永山 幸男	西川 淳	西村 純	西村 史朗	野口 正史
野田 学	蜂巢 泉	馬場 直志	濱部 勝	日江井榮二郎
平尾 孝憲	平田 龍幸	福江 純	福島登志夫	藤本 正行
布施 哲治	細川 瑞彦	本間 希樹	前田 恵一	牧島 一夫
楨野 文命	松浦 周二	松原 英雄	松村 雅文	満田 和久
宮崎 聡	三好 真	村上 泉	毛利 勝廣	森田耕一郎
柳澤 正久	山田 卓	山田 亨	山田 吉孝	山中 大学
塚本 尚義	横尾 武夫	横尾 広光	横山 紘一	吉川 真
吉森 正人	渡部 潤一	渡辺 堯	渡邊 鉄哉	度會 英教

## ■本書の特徴

- 約5000項目の見出し語は、文部科学省の『学術用語集 天文学編』をはじめとする天文学関係の各種辞典類、用語集から選び、また、The Astronomy and Astrophysics Encyclopedia などの欧文書籍も参考にし、それらに掲載されていない最新の用語も適宜採り入れてある。
- 「準惑星」、「太陽系外縁天体」などあらたに提案された天文用語から、「あかり」、「ひので」といった日本の観測衛星、計画中のプロジェクトまで、可能な限り最新の用語も採り入れた。
- 最先端の科学用語とはいえなくなったが、現在でも広く天文学の分野で使用されている星座名、星の固有名、各種天体の通称名などは積極的に採用した。
- 原則的に小項目主義を採用し、各項目の定義的説明のあとに重要度に応じて解説を加え、適宜中項目、大項目として扱っている。特に現代の天文学に大きな位置を占める「パルサー」や「ブラックホール」といった用語については、その歴史的経緯を含めて解説してある。
- 「北アメリカ星雲」、「ふくろう星雲」など天文ファンになじみ深い星雲星団も数多く見出し語として採用し、これらの天体の物理的機構もわかりやすく解説した。また、NASAなどが提供する天体画像だけではなく、日本のアマチュア天文家の撮影した天体写真も必要に応じて掲載した。
- 通常は天文学分野に含まれない物理学、化学、生物学、地質学の用語、あるいは観測装置関連の工学用語でも、天文学と関連の深い用語（たとえば「CCD」など）については見出し語として採用した。

## ■主な読者対象

- 天文教育普及関係者：用語の理解、解説文作成の資料として
- 科学ジャーナリスト：用語の確認、関連事項の理解のために
- 研究者：日本語による術語の確認や一般向け解説への執筆資料として
- 大学・高校生：天文学の基礎的事項の確認のために
- アマチュア天文家：幅広い天文学の理解のために
- 天文ファン：天文書、ニュースに登場する天文用語の確認のために

## ■編集担当者より

弊社は半世紀以上にわたり、天文雑誌・天文書籍を通じて天文学の普及活動にかかわりを持ち、専門家と天文ファンとの間の架け橋という役割を担ってきました。天文学には数百年にわたって、アマチュアの観測家・研究者が活躍し、あるときは天文学のあらたな分野を切り開いてきた歴史があります。そして、日本には現在、新星・超新星の発見、変光星の継続的観測、彗星・小惑星の発見と軌道決定、小惑星による恒星の掩蔽観測、その他の分野で研究をリードするアマチュア研究者・観測者が存在しています。これだけ活発にアマチュアが活躍している国は他に例を見ないほどです。弊社が刊行する天文学の大事典である以上、編集にあたってはこれら天文学におけるアマチュア天文家の足跡、役割にも配慮したつもりです。

ご注文は全国の書店または直接小社へ


〒162-0835 東京都新宿区中町15

**地人書館 営業部**

TEL 03-3235-4422 FAX 03-3235-8984

E-mail: chijinshokan@nifty.com URL: <http://www.chijinshokan.co.jp>

—〈切り取り線〉—

注文書	書店(帳合)印	発行所	地人書館	編者	天文学大事典編集委員会	 9784805207871
		冊数	冊	定価	25,200円(税込)	
		書名	天文学大事典 ISBN978-4-8052-0787-1			
		ご住所				
		お名前			お電話	